

店頭から
「こんにちは」

第 105 回

体調を崩した人々の明日を考える日々 苦しいことがあればまず相談を

治療のために服用して、すぐに現れる副作用があります。

一方、何か月もかかって徐々に、思いもしない症状が発現する場合も――。

元の顔色へと戻り笑顔に

50歳代後半の女性。内科へ行った帰り、しかも、これから皮膚科へという前に、「ちょっと相談してみよう」と立ち寄られました。

2種類の降圧剤をのんでいたものの、1錠で済むからと、配合錠に替えて1か月が経過を。

今回も処方されたものの、顔が急に赤くなってきたことを、医師に話したそうです。すると、「分からないので、皮膚科へ行きなさい」といわれたとか。

「それなら、まず宮川薬局さんで聴いてから」と思ったそうです。

「かゆみは、まったくありません」といいます。仕事柄、マスクはずつとしているものの、マスクによるカブレでもなさそうでした。

降圧剤と抗コレステロール薬、酸化マグネシウムは、長く服用を。

私は、お伝えしました。

「降圧剤の副作用で、顔面紅潮が現れることもあります。血圧も安定しているようだから、処方医の先生に相談して、1週間ほど、服

用をやめてみては？ 急に血圧が上がることもないので、心配せずに様子をみましょう。1週間で結果が分かると思います。顔面紅潮がとれば、降圧剤の副作用であると分かりますよね」

それから1週間も経たないのに、女性は、ニコニコとやって来られました。

元の顔色に戻り、「洗顔してもさらっと気持ちがよくなりました」と。「抗コレステロール薬も、一緒にやめています」と、お礼にケーキをいただきました。

副作用を乗り越えて

60歳代の女性の不調の原因は、別の種類の降圧剤でした。

肩から背中にかけてパンパンに張りがあり、「マッサージをしても、カイロを使っても、温泉に入ってもどうにもならない」と。

「降圧剤の副作用だ」と思い、服用を止めてもらうと、「10日ほどで、ずいぶんラクになりました」といいます。

以前からあった五十肩の痛みだが、今は残っているとのこと。

その他、89歳の女性の話もしておきましょう。咽にへばりついた痰がとれないような気がして、「ゲエッゲエッ」と、無理に痰を排泄しようとしていました。

降圧剤の副作用で、「咽・喉頭等の腫脹を症状とする血管浮腫が現れる」という情報があります。

血管浮腫が咽で起こると、痰のようなものがへばりついた感覚を覚え、この女性のような病態を現すのです。喘息ではないと、しっかり観察をされていて分かったのですが、降圧剤をやめると、1週間ほどで消失していました。

直感力のある医師、あるいは店頭の薬剤師に相談すると、解決の糸口が見つかる場合があると感じ、今回ご紹介した次第です。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ

宮川季士先生



プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「ぜひ、体調維持に努めてください」